

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成24年度第1回高松市男女共同参画推進懇談会
開催日時	平成24年6月8日(金) 13時30分～15時36分
開催場所	市役所3階 32会議室
議 題	(1)会長・副会長の選任について (2)会議の公開について (3)高松市男女共同参画センター基本計画(案)について (4)男女共同参画に関する今後の行事等について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	時岡会長，蓮井副会長，本田委員，三木委員，野田委員，綾田委員，湯浅委員
傍聴者	0人 (定員 10人)
担当課および連絡先	政策課男女共同参画推進室(839-2275)

会議経過および会議結果

- (1) 会長・副会長の選任について
高松市男女共同参画推進懇談会設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員の互選により会長が選任され、副会長は会長が指名した。
会長 時岡 晴美 氏，副会長 蓮井 孝夫 氏
- (2) 会議の公開について
本懇談会では、個人情報等、非公開となるような事項の審議は想定されないことから、今後の会議について公開とすることとした。
- (3) 高松市男女共同参画センター基本計画(案)について
高松市男女共同参画センター基本計画(案)について、事務局から内容を説明した。
- (綾田委員)
現在の参画センターの延床面積はどのくらいなのか。
- (事務局)
約1,800㎡である。
- (会長)
会議室やセミナーとして使える部屋は何㎡か。新しい施設では、ほぼ同じくらい確保されているのか。
- (事務局)
現在、第2，第3，第8会議室が学習研修室として使われており、合計約320㎡である。新しい施設では、約200㎡であるが、それ以外、ミーティングルームなどを活用してもらえればと考えている。
- (綾田委員)
貸館事業を見直すため、面積が減少になるのか。

会議経過および会議結果

(事務局)

現在は、5階まで会議室があるが、新しい施設では、スペースが限られており、各種機能を充実させるため、貸館専用の部屋を設けるのは、難しい。

(湯浅委員)

6階に相談室があるが、相談に来る人が、6階まで上がることに、心理的な負担がかかるのではないかと。色々な人の目にさらされるので、できれば、相談コーナーを1階に設け、相談員が1階へ降りてくるようなシステムにできないか。

(事務局)

プライバシーにも配慮した人の動線を考えていきたい。

(湯浅委員)

入口も一般の人とは別にするのか。

(事務局)

一つの建物なので、完全に区別することはできないが、6階を利用する人は、南側の入口から上がってもらうような動線を考えている。

(時岡会長)

相談室をどこに置くのかは、なかなか難しい問題である。1階に置くのも良いが、1階は、主に、子どもたちが使用するフロア構成になっているので、それも難しい。動線を工夫することが、一番大事だと思う。

また、相談に来る人だけが、特別な動線を利用するのもどうかと思う。以前、相談員の方から、相談者を無理に隔離するのではなく、相談室に入るまでは一般の人と紛れ、時間が来れば部屋に入って相談できるような形が良いということも聞いたことがある。

(湯浅委員)

2階の図書館の一部に相談室があっても良いと思う。女性相談には、子育ての相談や家族の介護相談などもあり、総合的な相談コーナーが2階にあっても良いと感じる。

(時岡会長)

3階の子育てプラザにも相談コーナーがあり、そことうまく連携していけば良いと思うが、ソフトの面とセットで考える必要がある。

(蓮井副会長)

相談に来る人は、基本的に「他人に知られたくない。」という思いがある。また、私は、自殺予防にもかかわっているが、相談室の硬いイメージを改善しようと、花や絵を置いたり、テーブルを丸みのあるものに変えたこともある。相談に来る人が、気軽に來ることができ、同時に、声が外に漏れないような機能性の高い相談室を作ることが大事である。

(野田委員)

男女共同参画センターの特色は、相談機能の役割があるということである。それゆえに、きちんとした相談コーナーを作って欲しい。単に、部屋を仕切るだけではなく、外に声が漏れないような、また、気軽に相談ができるような機能的なものにして欲しい。スペースの問題もあり、構造的なものをどのようにするかが、今後の課題である。

また、託児ルームと相談室が、6階の同じフロアにあるのは、いかなものか。子どもが泣いたりすることも考えられるので、相談室の機能を確保するため、託児ルームの設置場所については、もう少し考えてもらいたい。

(事務局)

相談室は、相談しやすい環境という視点に配慮し、検討していきたい。

託児ルームについては、6階に配置することで、男女共同参画センター

に足を運ぶ人が増えることを想定して、配置している。

今後、こども未来館（仮称）がソフト事業の検討に入るので、男女共同参画センターの関係者にも意見を聞きながら、どのような形が望ましいのか、検討していきたい。

（野田委員）

他県に視察に行くと、相談事業は、別棟で、独立した機能を持たせているところが多い。今回、一つの建物の中で、子育てゾーンと同居させているので、心配である。

また、相談室のほか、相談員の事務室など、いくつかの別れたゾーンが必要である。当初計画のように、別棟で建設する場合には可能であったが、限られたワンフロアの中で、どのように共存させるかについても、よく考えてもらいたい。

（時岡会長）

先ほど、事務局から、別の動線を考えるという話があったが、本当に実現できるのか心配である。ソフト面とセットで考えないと難しいということは分かっているが、相談者に安心感を保障することを考えた際、ハード面はハード面で先を見通しながらやっていかないと、最後は、なおざりになってしまうような危機感を持っている。

また、相談室と託児ルームの問題は、当初からあるが、「動線を別にする。」と言われても、このレイアウト図では、その動線が見えない。見えないレイアウト図を使って、事務局から動線を考えると言われても、よく分からない。

20ページの男女共同参画センターの方向性で、3つのポイントが挙げられているが、このポイントは、別棟で建てる段階で作られた部分であり、それが、そのまま使われており、無理がある。例えば、ポイント2で「気軽に利用できるしかけ」とあるが、当初案では、国道11号線から見ると、1階部分はガラス張りであり、こども未来館（仮称）に来た人も、気軽に立ち寄りやすくなる施設ということで、このポイントを掲げていた。

しかし、男女共同参画センターが6階になることで、センターがそこにあること自体、外からは見えない。そのような場所に、どのように人を誘導するのか。6階になると決まった段階で、この部分は見直すべきであった。

また、「こども未来館（仮称）との連携」とあるが、なぜ、平和記念館（仮称）との連携はないのか。平和という問題を、ジェンダーの視点で考えると、様々なことができると思う。

男女共同参画センターは、移転整備により面積が狭くなり、登録団体も減少するかもしれない状況で、唯一、アピールできるものとしては、3館の連携しかない。それを早く打ち出さないといけない。

（野田委員）

今までと同じ機能をそのまま持ってきて、6階に移動しただけでは、利用者は、ますます減少していく。今までは、貸館があり、安く利用できる会議室があるため、人も集まってきた。今後は、貸館もなくなり、場所も変わるので、仕切直しのつもりでやっていかないといけない。現在の登録団体が、これまでどおりの活動をするのは、無理だと思う。

（時岡会長）

こども未来館（仮称）と、どのように連携するのか。こども未来館（仮称）は、一からソフト面を検討していくと言っており、3館連携で男女共同参画センターから提案できること、例えば、託児ルームについても、どのようにしたら便利かということ、を、どんどん出していく。こども未来館（仮称）が計画を議論している段階で出していかないと、3館がそれぞれ案を作って、最後に連携するというのはあり得ない。それでは、連携はで

きない。

このように、3館が一つの建物内にあるというのは、非常に興味深いことなので、それを高松市らしく、どう打ち出していけるかという点が重要だと思う。

(綾田委員)

複合施設になっている先進例はあるのか。

(事務局)

中核市では、男女共同参画センターを設置しているのは30市、そのうち、複合館として設置しているが25市あるので、形態としては、複合館のほうが多い。

(時岡会長)

どのような施設と複合館になっているのか。

(事務局)

保健福祉やコミュニティ、生涯学習、図書館、青少年センターなど様々である。

(湯浅委員)

フロア構成は、もう変更できないのか。内閣府では、男女共同参画は最重要課題としていることから、男女共同参画センターは、建物の最上階の6階ではなく、1階などの目立つ場所に設置して欲しい。

(事務局)

現在のところは、これで進めていきたい。

(時岡会長)

縦に分けるという発想はないのか。例えば、3階までのフロアを縦に使い、その3分の1を男女共同参画センターにする。

(事務局)

管理のことを考えると難しい。

(蓮井副会長)

平和記念館(仮称)と男女共同参画センターは、継足しのように感じる。子どものための施設は、四番丁小学校の跡地に建て、中央公園と連携するとか、男女共同参画センターであれば、香川県社会福祉総合センターの近くに建てるとか、そのような繋がりが大事である。

今は、情報だけを集める時代ではなく、人と人をいかに繋げていくかという時代であり、この案を、一度、御破算にすれば良いと思うが、変更できない状態なので、中身をどう変えていくかである。

高度経済成長時代のままの発想をしている。もっと、人と人を繋ぐ、ソフトとソフトを繋げることを考えないといけない。

(事務局)

これまでの経緯を説明したい。元々、市民文化センター自体が老朽化しており、耐震化工事を考えていたが、建て替える場合と費用が変わらないということで、文化センターを再整備することから始まった。建て替えるのであれば、当初から、科学体験や子育て関係など、子どものための施設を整備したいという意見が議会からあったほか、当局も同様に考えていたため、こども未来館(仮称)を同じ場所に整備することとした。

平和記念室については、従来から、文化センター内に設置されていたことのほか、小学校5年生が文化センターでの校外学習の際に、平和記念室を訪れていることから、継続して同じ場所に整備することとなった。

男女共同参画センターについても、老朽化しており、今ある場所に再整備することは難しいということで、意見は色々あったが、整備場所を検討した結果、文化センターの跡地を有効利用することに決定した。

当初は、別棟の独立した建物ということで、話を進めていたが、土地の制約とこども未来館(仮称)に様々な機能が必要であるということから、

結果として、同一建物内に整備するという結論に至った。

議会から、すべてが中途半端になってしまうことを心配する声もあったことから、3館連携のメリットを整理するとともに、館の特色として打ち出していきたいと考えている。

これからは、ソフト面での検討に移っていくが、専門家の御意見も伺いながら進めていきたい。また、ゾーンごとに分かれて、縦割りで話し合うだけではなく、一堂に会する場を設け、御意見を伺いながら進めていきたい。建物の階の構成自体を変更するのは難しいので、中身が充実したものを作れるように、全力を挙げたい。

(時岡会長)

男女共同参画センターを別棟で建て替えるということだったので、様々な条件を呑んだが、それが同一建物の6階になるというのは、寝耳に水であった。当初計画が無理になった時点で、もっと色々なことを検討する必要がある。

(蓮井副会長)

南側の夜間急患センター(仮称)の建設は、早くから決まっていたのか。

(事務局)

現在、桜町にある施設では、インフルエンザなどの感染症が発生した場合に、施設が手狭で対応できないため、施設建設のための適地を探しており、市民文化センター跡地の南半分の場所に整備することとなった。

(時岡会長)

ハード面からではなく、ソフト面において、どのような連携をすれば、3館にとって良いのかということをし、しっかりと検討する必要がある。その上でなければ、レイアウトの細かい部分については、検討できない。ソフト面の連携を、どのように取っていくのかを明確にするとともに、いち早く作業に着手し、ゆっくりと検討できるようにして欲しい。

(三木委員)

子どもは下、大人は上というように、なぜ、横で分けたのか。子どもも大人とかかわることを推奨している。子どもの行動範囲を考えると、先ほど、会長が言ったように、建物を縦に使うようなことも必要ではないか。

以前の文化センターでは、2階に図書館があり、そこを利用する際に、他の施設にも立ち寄っていた。6階だと、なかなかそうはならない。利用者のことを、一番に考えて欲しい。

(事務局)

ゾーニングについては、フロー構成図の案をお示しし、色々と御意見をいただいていたが、今後とも、いただいた御意見が反映されるようにしていきたい。

(本田委員)

理想の中から、物ができて、それを利用するというのが本来の姿である。男女共同参画社会の実現という理想を進めるために、このような懇談会を設けたのであれば、ここで議論したことが、どこまで反映できるかが課題である。

(事務局)

今後は、委員の皆様方からいただいた貴重な御意見も踏まえ、基本設計とソフト面を、並行して検討していきたい。

(4) 男女共同参画に関する今後の行事等について

男女共同参画に関する今後の行事等について、事務局から説明した。

(閉会)

